

【成長戦略研究】 施設栽培における難防除細菌性病害発生要因の解明と対策(R3～R5)

総合農業技術センター

背景・目的

【背景】

- 企業参入や新規就農により、本県ではトマトやパプリカ、パクチーなどを導入した施設栽培が増えている。
- 上記の品目では、かいよう病・茎えそ細菌病(トマト)や軟腐病(トマト、パプリカ、パクチー)が生産安定の障害となっている。
- 全国的に上記の病害の被害拡大が進んでいるが、発生要因は不明な点が多い。

【目的】

- これらの病害の施設内での挙動を調査し、被害を抑制する対策を検討する。
 - ・病原菌が施設内のどこに存在し、どのように植物に感染するのか解明する。
 - ・各病害発生時に必要となる消毒資材や薬剤の評価を行う。



研究内容

1年目

施設内における病原菌分布の解明
・トマトかいよう病菌の分布解明

資材消毒材や防除薬剤の評価
・既存資材・薬剤の防除効果の比較

【経費 1,869千円】

2年目

施設内における病原菌分布の解明
・トマト茎えそ病・軟腐病菌の分布解明

資材消毒剤や防除薬剤の評価
・新規資材・薬剤の検討

【経費 2,000千円】

3年目

施設内における病原菌分布の解明
・パプリカ・パクチー軟腐病菌の分布解明

資材消毒剤や防除薬剤の評価
・栽培様式ごとの有効な資材の選定

【経費 2,000千円】

期待される効果

- 各難防除病害に対する発病抑制や、病害拡大によるリスクが低減し、生産安定につながる。
- 各病害に対する、資材消毒剤、防除薬剤の効果が明確となり、最善の防除方法が選定できる。
- 生産物の高品質化および施設野菜産地の維持・活性化につながる。

